

れきみん

# 資料館だより

No. Ⅲ-34

相生市立歴史民俗資料館

## 〈資料紹介23〉陸・狐塚古墳の謎(その1)-古墳をめぐる経緯と概要-

〈はじめに〉 当資料館には狐塚古墳出土遺物の一部(赤穂市立有年考古館蔵)が展示されています。中には、金銅製の冠の一部や鈴(馬に付けたものと考えられる)などの優品が含まれ、他に蓋形埴輪の一部、砥石状製品、馬具(輪鐙の兵庫鎖)もあります。また、赤穂市立有年考古館には、武器・武具・工具などの鉄製品や砥石が保管されています。

狐塚古墳は、かつて陸自治会館所在地(相生市陸本町13付近)に存在していましたが、完全に消滅して痕跡を留めていません(西隣接地に古墳が存在していたことを伝えるモニュメントが建てられている)。

〈破壊と調査・研究史〉 狐塚古墳について紹介した最も古い文献は、古澤省三による報告文です(古澤1917)。大正期に赤穂郡池之内村(現在の相生市池之内)を踏査した古澤は、狐塚古墳のことを伝聞し、1911年(明治44)頃のこととして「狐塚と称する一大円墳を発掘せしことあり。刀剣、人骨、木棺片、鎧の一部と思はるもの、勾玉、管玉、丸玉等出土せり。元塚上にあつ小祠ありしが、神社合祀令に基き他の社に移し、その址を地ならしして、青年倶楽部を建設せんとて開拓中、石槨の蓋石に当りて発掘せしものにして、当時の模様を聞くに円塚としては大規模のものなりし由なり。」と記しています。

1924年(大正13)には、神戸製鋼所播磨造船所殉職者慰霊碑の碑石に石室の天井石を使用(石室は磯際山に建立し、1957年(昭和32)に桜が丘に移設)したようです(森田ほか1960)。

戦後、1955年(昭和30)には、産業会館の建設に伴って調査されることなく消滅しました。ただ、破壊が進行する中で平井 漠らによって遺物が採集され、その時撮影された写真とともに保管され貴重な資料となっています(後に多くの遺物が散逸し、現在保管されているものは一部)。



写真1 破壊が進む中で遺物を採集するようす① 写真2 破壊が進む中で遺物を採集するようす②

いずれも1955年に平井 漠撮影 当資料館蔵

旧『相生市史』資料編(第2集)において「陸堂本古墳」として簡単に紹介された(高田1960)後、『相生市史』第1巻・同第5巻で概要が示されました(西谷1984・1989)。西谷は古墳をめぐる経緯にもふれ、「横穴式石室をもつ単独墳のうち、相生市で最も古いと思われるのが陸の狐塚古墳である。駅前の通に近い産業会館の敷地内にあったが、1914年(大正3)、ここに陸公民館が建てられたさい、墳丘の上半部をうしない、1955年(昭和30)

の産業会館建設で、じゅうぶんな調査もされないまま消滅してしまった。」と記しています。また、『有年考古館蔵品図録』において、有年考古館に所蔵されている遺物の一部が報告されました（西播流域史研究会編 1991）。

2011年（平成23）には、宇野慎敏が馬具の杏葉とされていた金銅製品を検討し、細带式冠<sup>たらかざり</sup>の立飾<sup>ぎょうよう</sup>であるとし、遺物の在り方から被葬者像についても提起しました（宇野 2011）。〈墳丘・埋葬施設と遺物〉前方後円墳であった可能性を説く声もありますが（岸本 2001）、上記報告からは大型の円墳であったと考えるのが妥当なようです。埋葬施設は横穴式石室であったようですが、形態・構造については検討を要します（次号で検討）。

遺物は、現在保管されているものに報告文の内容を加えると、円筒埴輪・形象埴輪（蓋）のほか、少なくとも金銅製細带式冠、玉類（勾玉・小玉・管玉）、鏡・武器・武具（鉄刀・鉄剣・鉄矛・鉄鏃・挂甲）、馬具（鞍金具・鐙・金銅製鈴）、工具等（刀子・鋸・釣針・砥石・砥石状品）、須恵器（器台・甕ほか）などの副葬品があったようです。保管されている遺物については、有年考古館 2019 年度特別展で展示・紹介されましたが（山中 2021）、質量ともに豊富で、特に渡来系遺物（金銅製細带式冠・金銅製鈴・砥石）と充実した武器・武具・馬具類が注目されます。

遺物から推定できる古墳の築造時期は5世紀末～6世紀初頭頃と考えられています（西谷 1989、宇野 2011）。  
[次号に続く]

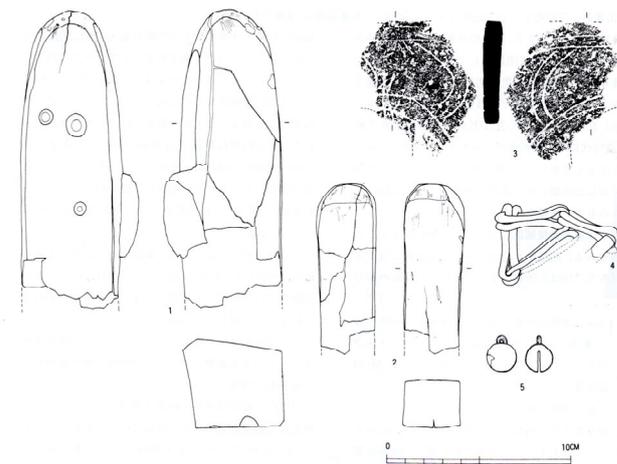


図1 狐塚古墳出土遺物 西播流域史研究会編 1991

1: 砥石状品 2: 砥石 3: 蓋形埴輪 4: 輪籠の兵庫鎖 5: 金銅製鈴

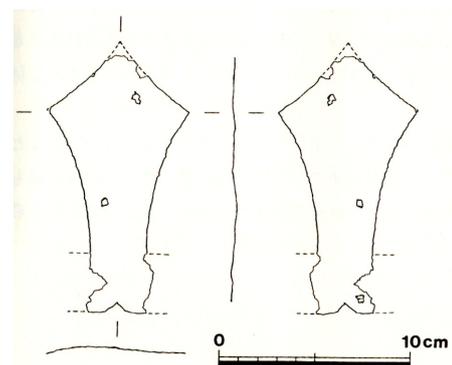


図2 狐塚古墳出土金銅製細带式冠立飾

宇野 2011

#### 〈参考文献〉

- 宇野慎敏 2011 「相生市陸・狐塚古墳出土金銅製冠片について」『古文化談叢』65-3（九州古文化研究会）
- 岸本道昭 2001 「播磨の前方後円墳一覧（2001年2月現在）」『前方後円墳からみた播磨』集会の記録（第1回播磨考古学研究集会実行委員会）
- 西播流域史研究会編 1991 『有年考古館蔵品図録』（財団法人 有年考古館）
- 高田博文 1960 「弥生式文化時代・古墳文化時代の相生」『相生市史』資料編（第2集）（相生市教育委員会）
- 西谷真治 1984 「地方勢力の誕生」『相生市史』第1巻（相生市・相生市教育委員会）
- 西谷真治 1989 「狐塚古墳」『相生市史』第5巻（相生市・相生市教育委員会）
- 古澤省三 1917 「近郷踏査録（1）」『考古学雑誌』8-4（日本考古学会）
- 森田穰平ほか 1960 『播磨造船所 50年史』（株式会社 播磨造船所）
- 山中良平 2021 「特別展『謎の氏族—秦氏〜考古学からみたその実像〜』」『有年考古』第8号（赤穂市教育委員会）  
（中濱久喜）